

体育科・保健体育科 特別活動「学校行事」

特別支援学校におけるパラリンピック種目体験

期待できる効果

- こんな子どもの姿を期待できます
 - ・運動のもつ特有の楽しさを深く味わう子ども
 - ・目標をもって挑戦し、最後まであきらめずに粘り強く取り組む子ども
 - ・積極的に人と関わり、より良い人間関係を築くことができる子ども

1 特別支援学校での取組(ボッチャ)

パラリンピックの正式種目であるボッチャを体育の学習に取り入れました。自分の課題に応じて転がす練習や、距離感を掴む練習、的の中に入れる練習、ボールに当てる練習、ボールを避ける練習等を行いました。最後は、校内大会を開催し、競い合う楽しさを味わうことができました。また、競技者としての夢をもつことや、運動を継続していくことへの意欲付けにもなりました。

2 近隣の学校との交流(ボッチャ大会)

前年度の校内大会を発展させ、近隣の5つの特別支援学校と共催し「第1回ボッチャ大会」を開催しました。5つの学校同士で親睦を深めるため、各学校の紹介を行ったり、学校対抗ではなく学校混成のチーム編成をしたりしました。また、パラリンピックのように3位までにメダルを授与しました。全員に参加賞も準備しました。子どもたち同士の親睦を深めることができ、また、保護者間や教師間の親睦も深めることもできました。「いっぱい練習して次はメダルをとれるように頑張る」等と次回への意欲を見せる子どもも多くみられました。

3 ハンドサッカー ビーンボーリング

まず、ハンドサッカーの映像を視聴し、ハンドサッカーというスポーツと出会いました。その後、パスやシュート、ディフェンス等の練習をし、ゲームを楽しみました。最後は、校内大会を開き、集団ゲーム特有の楽しさや、上手にできるようになった技能の高まり等を共有していきました。卒業後も運動を継続する習慣を身に付けさせるため、子どもたちだけでなく保護者へも協力依頼や啓発活動、地域の競技会の紹介・幹旋等を行いました。



ココがポイントです！

- ①パラリンピック種目を体育の学習に取り入れることで、生涯を通じて運動やスポーツにかかわり続けることが期待できます。
- ②校内での取組を、学校間の交流へと発展させて取り組むことは大変効果的です。
- ③保護者の理解や協力を促進したり、新たな保護者同士の関係を築き広げることに大変有効です。

第1回ボッチャ大会の様子



▲開会式での選手宣誓と学校紹介



▲競技中の様子



▲閉会式での表彰式

ビーンボーリング

